



ご 挨拶

会長 犬塚 正憲(D48) 幹事長 伊藤 龍美(D60)

緑会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、緑会の諸行事および運営に対し暖かいご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス禍中、2月にロシアがウクライナに進行し世界の分断が深まり、さらに、食料やエネルギーなどの高騰が拍車がかかり、歴史的なインフレが世界経済を襲う激動の年でありました。大国の力による現状変更がまかり通る不条理な世界になりつつあります。また、コロナ禍からの回復が進むという年初時点の楽観的な見通しも外れました。一方、国内の状況は、日本経済が停滞する中、対ドル150円を越す円安・ドル高に見舞われ、さらに、エネルギー価格高騰、生活用品高騰等の物価高に見舞われています。新型コロナに関しては、オミクロン株を主として第8波が到来し感染拡大が進みました。そうした中で「ウィズコロナ」に向けた対策も進められ、水際対策の緩和、マスク着用規制の緩和などが施されてきました。また、産業界ではIoT、AI、ビッグデータ解析などの進展に伴いモノづくりを取り巻く産業構造も変化しています。今春、17大学で「データサイエンス」系学部が新設され人材育成が図られます。そして、このコロナ禍で各分野における業務のリモート化も一気に進んだと言えそうです。明るい話題としては、勝負に生きる者たちの圧倒的なパフォーマンスに沸きました。野球の大谷翔平選手は現行の米大リーグで初めて規定打数と規定投球回にダブル到達し、冬季オリンピック北京大会ではスピードスケートの高木美帆選手は日本女子の五輪最多メダリストになりました。さらに、サッカーのW杯カタール大会で日本代表が強豪のドイツ、スペインを撃破し日本中を熱狂の渦に巻き込みました。また、将棋界では史上最年少で五冠を奪取した藤井聡太棋士の快進撃が続いています。固定観念を覆し続ける挑戦者達から目が離せません。

そうした中、昨年6月の総会で令和4年度の緑会の新役員として選任いただき、緑会活動をスタートさせました。役員の皆様方の温かいご支援、ご指導をいただき、そしてまた、学内幹事の諸先生方のご尽力をいただきながら行事を進めてまいります。本年度もコロナ禍でのスタートとなりました。できる限り対面での会議開催を目指してまいりましたが、ただ残念なことに、飲食を伴う懇談会、親睦会等の開催を自粛せざるを得ない状況でありました。そうした中「令和4年度

キャリアサポート交流会」を令和5年1月11日にオンライン開催しました。コロナ感染拡大防止のため懇談会は中止といたしました。参加企業61社90名（うち本学卒業生27名）、学生の参加91名でありました。企業、学生とも対面での開催希望が多く、令和5年度については11月に対面での開催を予定し準備しております。

また、「総会・講演会」につきましては、本年6月17日(土)に対面開催を予定し、講演会では、出口義国氏に講演をお願いしております。本年度は懇親会を4年ぶりに開催の予定です。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

さらに、6月には第14回「化学公開セミナー」の対面開催を予定しております。緑会は2015年の第7回から共催いたしております。主として学生を対象に生命・応用化学教育類所属教員が自らの研究を優しく分かりやすく紹介しています。若い先生方の研究に対する夢や思いを直接聞くことができたいへん有意義なセミナーであります。

以上、緑会の主な活動につきましてご紹介いたしました。皆様方には奮ってご参加いただきまして、緑会活動へのご支援をお願い申し上げます。

さて、同窓会の持続的な活動を展開するためには、その基盤となる新役員の増強が不可欠と考え、役員の皆様あるいは研究室からご推薦をいただきながらその取り組みを行っております。名古屋工業会では、昨年の総会で、全卒業生を包含する「全学同窓会」に向けた基盤整備として、定款の見直し、役員体制の拡充を図りました。そして、本年度の取り組み課題として“単科会との連携を強化するため、新たな制度を設ける”とあります。緑会に対しても「全学同窓会」に向けた協力要請が出てくるものと思われま。緑会活動を継続する中でOBへの連絡手段の把握が大切であり、緑会では会誌「炎」の郵送によりその宛先確認（「宛先不明」返送されない）をしております。昨年まで、H8(1996)年卒業生までの宛先確認が出来ておりますが、それ以降卒業のまだ多くのOBに対して連絡手段の確認ができておりません。さらに、連絡手段の把握を検討してまいります。

結びと致しまして、今後とも緑会の活動が円滑に実施できるようご指導、ご支援を賜りますとともに、皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

生命・応用化学科 教育類長 岩田 修一

春爛漫の候、緑会の皆様には益々ご健勝のことお慶び申し上げます。毎年開催される「キャリアサポート交流会」や「化学公開セミナー」等、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

小職は、今年度の生命・応用化学類長（学科）ならびに生命・応用化学系プログラム分野長（専攻）を仰せつかっております。コロナ禍のために、3年前から講義形式が大きく様変わりしました。本学では、オンデマンド講義が導入され、学生は自宅等から受講するスタイルに大きく変化しました。研究活動も大きな制約が掛かり、コロナ禍以前の当り前の活動が貴重であることを実感させられました。図らずもオンライン方式が身近に活用する状況になり、感染防止という大きな目的以外に国内外の研究者と容易に情報交換ができるというメリットが享受されました。しかしながら、画面上の付き合いに限定される状況が続くことにより、人的交流の重要性が注目され、学会活動でも対面式のセッションが増えてきました。本学も昨年度から対面式授業が再開され、この4月

よりマスクの使用についても個人の判断が尊重される様になりました。コロナ禍以前の状態に徐々に近付きつつあります。

また、大学の基本路線である第4期中期計画が始まり、大学では、さらなる組織の改革が検討されております。今後も激動の波を乗り越えるべく、教職員一同精進し研究・教育に邁進していく所存です。

さて、教育類内の近況をご報告いたします。分析化学分野の大谷肇教授が3月末をもってご退職されました。4月からは、物理化学分野の片山耕大助教、無機化学分野の石井陽祐助教、有機化学分野の住井裕司助教がそれぞれ准教授に昇任されました。また、安川直樹先生が助教に着任されました。今後、諸先生方が大学での学科運営に対し強力な推進力となって頂けると期待しております。

最後になりましたが、緑会の皆様には本学科の学生・教職員に対し今後も変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げますとともに、益々のご健勝ならびにご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

生命・物質化学分野 就職担当 中村 修一

緑会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、皆様には日頃より本学科へ多大なご支援をいただき厚く御礼申し上げます。昨年度まで就職担当を担われた加藤教授の業務を、私：中村が引き継ぎさせていただくこととなりました。本年度も変わらぬご支援をいただきたく、よろしく願い申し上げます。

さて、この原稿を書いているのは3月上旬ですが、インターンシップの制度変更など就職活動ルールの見直しの流れは強まり、求人活動は速い動き出しとなっています。すでに内々定をいただいている学生も数十名おりますが、前年とは異なる就活戦線に学生の戸惑いも感じられます。現在、就活をしている学生は、コロナ禍が直撃した世代でもあり、人と人のコミュニケーションが希薄になりがちでした。学会発表など緊張感のある場をあまり経験できないため、面接において相手の質問に的確に答え伝える能力が育ちにくい環境で、自分を表現しきれない学生もいるように感じます。しかし、

当プログラムの所属学生には、自らの基礎的能力に輝きを加える努力を怠らないように指導しています。学生時代に得た知識・経験・考え方は、自身の一生を左右しますので、真剣に研究に挑んで、問題発見力、解決力、実行力、リーダーシップを磨き、付け焼刃の面接技術ではなく、本質を磨くよう今後も指導していきたいと存じます。

また、先日、緑会主催で開催いただきましたキャリアサポート事業には61社の参加があり、現時点で求人数が210社を超えるなど、本学学生に対する社会的要請は高いと実感しております。3月時点では、大企業、CM広報している企業に学生の注目が集まりがちですが、日本に産業を支えているモノづくりの源流、川上の会社にも視点が行くように就職指導を行っておりますので、学生の就職活動にご協力いただけますと幸いです。企業の求人採用活動は、社運を左右する最も重要な活動の一つです。企業活動の一翼を担える本学科の人材をぜひご採用いただけますと幸いです。



第13回化学公開セミナーの開催について

緑会庶務幹事 廣田雄一朗

緑会の共催行事である化学公開セミナーは、2010年から生命・物質化学分野の所属教員の研究をやさしく分かりやすく紹介するセミナーであり、学内外の興味ある方が参加可能な場です。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度は開催中止、2021年度はオンライン開催でしたが、感染防止対策の上、約3年ぶりに2022年6月29日に対面開催されました。第13回の化学公開セミナーでは、有機化学分野の中村修一教授より「新規不斉触媒の創製と四置換不斉炭素構築法の開発」の演目で、分析化学分野の北川慎也教授より「イオンモビリティ質量分析法による合成高分子の解析」の演目で、研究紹介を頂きました。当日は103名の参加者があり、非常に多くの学生の参加がありました。両先生からは、これまでに多く、そして最近の研究成果のみならず、当時の思い出や研究において大事になさっていること、また学生へのメッセージなどもお話下さいました。

化学公開セミナーは、各教員の研究内容を直接識ることのできる機会ですので、同窓生の皆様も、ご予定合いましたら、2023年度の第14回化学公開セミナーへご参加頂ければ幸いです。



講師の中村修一教授（左）と北川慎也教授（右）



令和4年度キャリアサポート交流会の開催について

緑会庶務幹事 廣田雄一朗

緑会主催で毎年開催してきたキャリアサポート交流会は、新型コロナウイルス感染症による影響が見通せなかったことから、令和2、3年度に続き、オンラインにて開催しました。

昨年からの大きな変更点は3つあります。1つ目は、企業情報ページの充実です。全学の業界/企業研究セミナー同様に、参加企業の詳細な情報のみならず、学部卒・修士卒・博士卒学生が活躍できる分野の紹介、名工大生へのメッセージ、OB・OG参加予定の有無、また希望する企業にはPR動画を掲載し、学生への積極的な情報発信を行いました。2つ目は、学生のRemo接続時に、企業PR動画を流したことです。学生に幅広く企業を識ってもらうことを目的に、交流会前に1分程度のPR動画を連続的に流すことを試みました。参加企業すべてのPR動画を流すことは時間的な制約上難しく、先着順とさせて頂き、希望された18社のPR動画を流しました。学生からのアンケート結果からは、上述2つについて好意的な回答が得られておりました。

3つ目は、企業へ本学OB・OG（緑会に限らない）の積極的な参加をお声かけしたことです。緑会が主催する本交流会は、単なる就活イベントでは無く、「学生が将来のキャリア形成を考える機会」であり、また「卒業生が母校と接する機会」でもあることを意識してのことです。当日は26社より緑会会員を含む本学OB・OGが参加下さいました。また、企業からのアンケート結果においても、「業務の都合、OB・OG

参加が難しかった」など、OB・OG参加を積極的に検討頂けたことが伺えました。当日にご参加頂けた企業様の情報は、緑会ホームページよりご確認頂けます。

就職担当の中村修一先生のご挨拶にもありますとおり、インターンシップの制度変更など就職活動ルールの見直しなどを背景とし、求人活動は速い動き出しとなっています。また、コロナ禍でオンライン会議システムが普及したこともあり、オンラインでの企業説明会も多く開催されております。今回、本交流会の運営に参画させて頂き、他の類似企画との差別化を図っていくことが重要である、と緑会・執行部の皆様と認識を共有致しました。本学OB・OGの積極的な参加は1つのポイントになると考えております。

最後に、本交流会はオンライン開催が続いておりましたが、愛知県のイベント開催要件と連動する形で、学内でのイベント開催要件も緩和されてきております。就職活動の早期化へも対応すべく、令和5年度のキャリアサポート交流会は2023年11月に、5年ぶりの学内対面開催にて既に準備を開始しております。「卒業生が母校と接する機会」でもある本交流会へ、同窓生の皆様も積極的に参加頂けますと幸いです。

○当日のスケジュール概要

日時：令和5年1月11日（水）

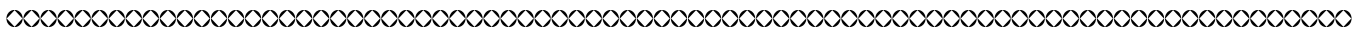
場所：オンライン会議システムRemo（管理運営：株式会社

日本キャリアセンター)
 主催：名古屋工業大学 緑会
 共催：名古屋工業大学 生命・応用化学科 生命・物質化学
 分野（D分野）
 12:00-12:30 企業Remoへ接続
 12:30-13:00 学生Remoへ接続 / 企業PR動画の放映

13:00-13:20 緑会およびD分野からのご挨拶
 緑会会長 犬塚 正憲
 2022年度D分野長 小澤 智宏
 就職担当 中村 修一
 13:20-15:50 1ターム（30分）×4回
 第1タームのみ指定席、他のタームは自由席

○令和4年度開催分と過去の参加企業数、参加登録者数

	令和4年度 (オンライン)	令和3年度 (オンライン)	令和2年度 (オンライン)	平成31年度 (中止)	平成30年度 (対面)
企業数	61社	75社	66社	—	86社
企業関係者 (卒業生)	90名 (27名)	129名 (40名)	117名 (32名)	—	152名
学生	91名	123名	178名	—	113名
緑会役員	4名	5名	5名	—	5名
教員	11名	22名	16名	—	9名



名工大メールアドレス取得・利用の勧め

現在、緑会ニュース「炎」は年一回発行し、郵送しております。郵便料金と電子メールの価格差は今後ますます広がっていくことを考えると、将来的には電子メールに移行する必要があります。その際にメールアドレスが必要となりますが、個人メールアドレスを収集し、緑会で管理することは負担が大きく難しいためできません。そこで、名古屋工業大学卒業生連携室が管理する名工大メールアドレスを利用したいと考えております。卒業生の方なら、生涯無料で利用でき、プロバイダの変更や退職等によりメールアドレスが不明になることがない利点があります。下記に申込方法を卒業生連携室HPより転載しましたので、ご利用ください。

ルマガジンの配信アドレスになります（例：名工太郎さんの場合、t.meikou.xxx@nitech.jp（xxxは3桁の乱数））。

また、メールマガジンをお届けする以外にも、皆様方での連絡手段としてご利用いただけるだけでなく、メールリストやスケジュール管理などGoogleが提供する各種サービスもご利用いただけます。

なお、ご登録いただきました個人情報については、本学で適正に管理し、このウェブサイトに掲載している個人情報保護方針の「個人情報の利用目的」以外には使用しません。また、断りなく同窓会以外の団体や個人等に提供することはいたしませんので、ご安心ください。

本サービスによって、皆様方の中での交流や本学との情報交換がより一層促進されることを期待しております。

名工大メールアドレスの申込みと登録情報の確認・変更のお手続き

改訂 平成29年4月1日
 平成24年9月1日

名古屋工業大学では、卒業生の皆様に、生涯無料で利用できる名工大メールアドレス（Gmail）の提供をしております。

【※2012年3月以降に卒業された方々と、在学中の学生の皆様には、既に名工大メールアドレス（Gmail）が発行されております。】

このメールアドレス（Gmail）は、本学卒業生専用のドメイン「nitech.jp」を持ち、本学から定期的にお届けするメー

名工大メールアドレスサービス（申込み、確認・変更）
<https://alum.nitech.ac.jp/service.html>

第14回化学公開セミナーについて

2023年度の化学公開セミナーは、2023年6月頃に開催予定です。

開催については、名古屋工業大学 生命・応用化学科HP <http://lsac.web.nitech.ac.jp> の新着情報をご確認ください。

教員の異動（2022.4以降）		退任	2023年3月31日	大谷 肇	教授
	着任	2023年4月1日	安川 直樹	助教	
	昇任	2023年4月1日	石井 陽祐	准教授	
		2023年4月1日	片山 耕大	准教授	
		2023年4月1日	住井 裕司	准教授	

令和4年度卒業生進路一覧

●博士後期課程●

三菱ケミカル㈱

●博士前期課程●

アイカ工業㈱, アイシン㈱, ㈱ADEKA, ㈱アドマテックス,
アピ㈱, ㈱アリミノ, 伊藤忠テクノソリューションズ㈱,
宇部興産㈱, AGC㈱, ㈱SRA, ㈱FTS, 岡谷鋼機㈱,
川崎重工業㈱, クミアイ化学工業㈱, 黒金化成㈱,
サーラエナジー㈱, 三和油化工業㈱, シーシーアイ㈱,
㈱JERA, ㈱ジェイテクト, 信越化学工業㈱, 住友理工㈱,
㈱セキソー, 竹本油脂㈱, 中央発條㈱,
中部電力パワーグリッド㈱, ㈱デンソー, 東亜合成㈱,
東海理化電機製作所㈱, 東邦ガス㈱, 東洋紡㈱, 豊田合成㈱,
㈱トヨタシステムズ, トヨタ自動車㈱, トヨタ車体㈱, トヨタ紡織㈱,
名古屋工業大学博士後期課程(スタートアップ助教),
ニチハ㈱, 日揮ホールディングス㈱, 日産化学㈱,
日清食品ホールディングス㈱, 日東電工㈱,
㈱日東分析センター, 日本ガイシ㈱, 日本触媒㈱,
日本電気硝子㈱, 日本特殊陶業㈱, ㈱ノリタケカンパニーリミテド,
ハウス食品㈱, パナソニックエナジー㈱, 林テレンプ㈱,

㈱日立ソリューションズ, ㈱フジミインコーポレーテッド,
フタバ産業㈱, ブラザー工業㈱, パナソニック㈱エナジー社,
㈱MARUWA, 三井化学㈱, 三井・ケマーズフロプロダクツ㈱,
三菱原子燃料㈱, 三菱重工業㈱, 三菱電機㈱, ㈱メニコン,
森永製菓㈱, ㈱LIXIL

●第一部●

朝日インテック㈱, イビデン㈱, キオクシア㈱, 北川工業㈱,
㈱GL HAKKO, ㈱栗本鐵工所, サーラエナジー㈱, 三甲㈱,
スターバックスコーヒージャパン㈱, 中部電力ミライズ㈱, ㈱榎屋,
トヨタ車体㈱, トヨタ紡織㈱, 名古屋工業大学博士前期課程,
日華化学㈱, ㈱バイナル, ㈱パイロットコーポレーション,
林テレンプ㈱, PRAヘルスサイエンス㈱, 日立建機㈱,
ホーユ㈱, リスパック㈱, リンナイ㈱

●第二部●

静岡大学職員, 名古屋工業大学博士前期課程,
㈱和井田製作所

令和5年度 緑会総会のご案内

緑会総会・講演会を下記の要領にて、名工大内で開催致します。また、総会後に懇親会も4年ぶりに開催致します。

同窓生をお誘い合わせの上、是非ともご参加頂ければ幸いです。

記

日 時 令和5年6月17日(土) 14時より
場 所 名古屋工業大学 23号館2311講義室

○総 会

○大学近況報告 生命・応用化学科 教育類長 岩田 修一 教授

○講 演

題目 「分析化学と化学分析の接点で過ごした40年」

講師 出口 義国 氏 (G57, DM59)

○懇親会 サッポロビール名古屋ビール園 浩養園 17:00~19:00

【定員：40名、参加費：無料】

ご参加いただける同窓生の皆様におかれましては、6月1日(木)までに、方法①あるいは②にてご連絡いただければ幸いです。懇親会について会場の収容定員の都合から、参加希望の方は必ずお申込み下さい。お申込み多数の場合は先着順とさせていただきます。

方法① 下記の事務局宛、E-mailまたはハガキにて「お名前」「ご卒業年」「ご連絡先」をご連絡

方法② 右のQRコードよりご参加フォームにアクセスの上、ご連絡

新型コロナウイルス感染症の状況悪化などによる中止の場合は緑会

HPに掲示致します。

連絡先 名古屋工業大学 緑会事務局 宛

E-mail : midori@ach.nitech.ac.jp

住所 : 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町



名工大、緑会、工業会ホームページの紹介

最新の情報をホームページに掲載しております。

名工大HP : <http://www.nitech.ac.jp/>

緑会HP : <http://www.ach.nitech.ac.jp/~midori/>

名古屋工業会HP : <http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

住所変更などの連絡は以下にお願いします。

E-mail : renkei@adm.nitech.ac.jp

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 卒業生連携室